女學雜誌

第二百五十號目次

社説　地久節○陰陽男女の妙理を講ず
論説　女子と速記術とに就きて思ひ當りたるとの一二（林茂淳）
批評　森林太郎氏の駁書論○ぽたもち小説……駄菓子小説○閨秀新誌○女學生○惡文學を禁止せよ○豐太閤裂封册○科學の原理○物理學現今の進歩○國文學
雜録　豐田芙雄女史を訪ふ○女性冷待の文學上に於ける影響○改革者の一要素○聖人の恨○謹しみて苦しみ侍らん○共立女學校盜難の詳報○無名氏の寄附○土にて粥を造る事○ホイットニー氏の書簡○家の手わざ○きよめぬ庭
小説　うき世（二）
寄書　民は饑たり妾は醉たり馬は肥たり
開書　交詢
時事　政治○宗教○大學新總理○生徒及罪人の不自由○政談と學術演説の區域○熱望○女學上反動
廢娼記事　全國廢娼同盟會年會記事
女報
週報

"Jesus himself in his life and in his teachings, constantly opposed the imitation of external perfection."—Froebel.

百人一首講義　並製　再版

女學生　第一號　出版

通信女學　第五號　出版

理想佳人紳士　答文次號より掲載せん

五月卅一日發兌　第二百五十號　一冊定價六錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第二百十五號目次

社説　地久節○陰陽男女の妙理を講ず
論説　女子と速記術とに就きて思ひ當りたるとの一二(林茂淳)
批評　森林太郎氏の駁書論○ぽたもち小説……駄菓子小説○閨秀新誌○女學生○惡文學を禁止せよ○豊太閤裂封冊○科學の原理○物理學現今の進歩○國文學
雜録　豊田芙雄女史を訪ふ○女性冷待の文學上に於ける影響○改革者の一要素○聖人の恨○謹しみて苦しみ侍らん○共立女學校盗難の詳報○無名氏の寄附○土にて粥を造る事○ホイットニー氏の書簡○家の手わざ○きよめぬ庭
小説　うき世(二)
寄書　民は饑たり妾は醉たり馬は肥たり
開書　交詢
時事　政治○宗教○大學新總理○生徒及罪人の不自由○政談と學術演説の區域○熱望○女學上反動
廢娼記事　全國廢娼同盟會年會記事
女報
週報

"Jesus himself in his life and in his teachings, constantly opposed the imitation of external perfection."—Froebel.

百人一首講義　並製再版

女學生　第一號出版

通信女學　第五號出版

理想佳人紳士　答文次號より掲載せん

五月卅一日發兌　第二百十五號　一冊定價六錢

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 215. 31st. MAY, 1890.

EDITORIAL :—Man and Woman, Two Opposite Elements of Nature.

LEADING ARTICLES :—A Word or Two in regard to Girls Studying Short-hand-writing.

CRITICAL NOTES :—Dr. Mori's Refuta-tion of Prof. Toyama's Essay on Japanese Pictorial Art. Various Kinds of Novels. "Keishu Shinshi." "The Jogakusei." Infamous Lite-rature must be Prohibited. A New Novel. Two New Treatises on Physics. Japanese Literature.

MISCELLANEOUS :—An Interview with Mrs. Toyoda, a Pioneer in Woman's Education. In-difference to the Woman's cause and its Con-sequences to the Progress of Literature. An Essential Characteristic of a Reformer. The Sage's Complaint. Robbery Committed at the "Kyoritsu Jogakko." An Anonymous Contribution. Living on Clay. Dr. Whit-ney's Letter. The House-wife.

NOVEL :—"Ukiyo."

OPEN LETTERS.

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

第二百十四號目次

社說 教育者、信徒、廢娼論者に告ぐ○今の德育主義○天下を讓らん

論說 女子簿記學を學ぶの必要（村木經策）○狂歌の粹（星野愼）

批評 日本文學全書を讀む○三評論○十一新聞○國文學讀本

雜錄 家庭の風色（千松閣女史）○無用の事には拙なけれ○希臘人の躰育○モリス夫人の演說○其男を叩き殺せり○門出○一席夜話（長者の心得）○きよめぬ庭○家の手わざ○近藤賢三君四回忌

小說 うき世

寄書 養鷄に就て○すみれ草○小品文

開書 貧民を助けよと祈る○突詢

時事 牧地救助會○政海風針○改進せよ○山林必しも靜雅ならず○群集に於ける西洋人多望快好○樹を植ゆ、人を植ゆ○廢娼記事

女報 印刷局の女工○婦人の慈善○横濱婦人慈善會○女生徒上京○女傑傳○女小說家○メッド夫人○アッケルマン孃○カルチス夫人

WOMEN IN JAPAN.

THE GENERAL CONFERENCE OF THE "HAISHO DŪMEI KWAI."

I.

The first annual conference of the association met at the "Meiji-Jogakko" on the evening of the 24. Delegates were sent from 14 different societies all over the empire, including those in Kyoto, Ozaka, Kumamoto, Sendai, Iyo, Yamanashi etc. Besides these, there were representatives from 7 societies in Tokyo, 2 of which are organizations of Christian ladies and 1, the "Fujain Kwai" is an organiza-tion of Buddhistic believers. The meeting was begun by the reading of congratulatory addresses as well as telegraphic missives of similar character with Mr. Kojima as chairman. They decided on 2 propositions, that of sending in petitions in re-gard to the subject of public prostitution to the parliament as soon as that body should open its first session and that of beginning a new magazine as an organ of the association. There were 140 present.

II.

Addresses on the same subject for the benifit of the public were delivered on the 2 succeeding nights (26 & 27) at the "Kosei Kwan." The speakers on the first night were Rev'ds Kanamori, Miyagawa, Hiraiwa Messrs Ueki and Iino and Dr. Eby those on the second night were Rev. Yokoi, and Messers. Oe, Nemoto and Miyake. Rev. Robbins from India who happened to be present on the last night also made an address.

III.

The Woman's Magazine Office has just published a new magazine the "Jogakusei." The following is a copy of the object of the Magazine.

WHAT "JOGAKUSEI" (THE GIRL-STUDENT.) AIMS AT.

1. Literary societies in educational institutions all aim at the cultivation of independent thinking and originality of the students. "Jogakusei" seeks to encourage and assist in the attainment of this object by collecting the productions of these societies, and by making critical comments on them.

2. "Jogakusei" seeks to bring forward before the public the achievements of the Girl-students and will serve as a champion of Female education.

3. "Jogakusei" will serve as a convenient means to bring about a greater sociableness and a mutual exchange of ideas so profitable for the Girl-students.

Its Aims being such, we hope that "Jogakusei" will meet the favor of all interested in Female educa-tion.

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百十五號 明治二十三年五月卅一日發兌

明治二十三年五月二十八日

奉祝 皇后陛下聖誕日

女學雜誌社々員一同

社説

皇后陛下万歳

陰陽男女の妙理を講ず

眼を放つて今の活世界を見れば、世上茫漠として砂原に似たり、到る處ろ、温たかにして美なるの女元極めて貧し矣。易に云く、大ひなる哉乾元、万物資つて始む、乃はち天を統ぶ、乾道變化して各々性命を正し、大和を保合す、乃はち利貞、首として庶物に出で万國咸とく寧すし。至れる哉、坤元、万物資つて生ず、乃はち順がつて天に承く、坤厚ふして物を載せ、德疆りなきに合ふ、含弘光大にして品物咸とく亨る、柔順にして利貞、君子の行ふ所ろと。天地間の万事大率ね陰陽の二氣を備ふ、陰は柔なり暗なり、陽は剛なり明なり、剛柔明暗相調和して圓滿の世を現ず。

見よ、偉人とは陰陽兩氣の美はしく合したるの人也、天國とは剛柔二性の甘まく調ひたるの國なり、孔子云く、威ありて猛からず文にして武ありと、クリスト云く弱くして強く高くして卑く猛くして温柔しかれと、釋尊云く、利劍を以て威と爲し慈悲を以て涙となすと、皆な陰陽二元相和して初めて完全せる人德を造ると云ふなり。聖經に云く、理想の國に於ては男もなく女もなしと、蓋し性に於て男女なきにあらず質に於て男女の異なれるを去り、渾然同化して男に非ず女に非ざるの人間と爲るを云ふ也、人もし男らしと云はゞ吾人其過激なるを見る、もし女らしと云はゞ吾人其過柔なることを知る、男らしく女らしきは未だ質の完きものにあらず、其の人間らしきに至りて初めて完全の人物たるを知る也。誰かクリストを以て男子なりと云ふ、クリストは男にもあらず女にもあらざる也。誰か上帝を以て女子なりと云ふ、もし造物

主に賦するに男女何れかの異質を以てするものあらば、其の神を見るの觀念極めて低きことを知る也、スペンサー云く、神を見るの觀念未だ進まざるとき即はち神を目して人質に似たりとすと、天照大神を女なりとするか未だ可あらざる也、ジュピタを男也とするか未だ可ならざる也、最高の上帝は男にもあらず女にもあらざる也。何んぞ只だ上帝のみならん、クリストも亦た男にも女にもあらざる也。亦何んぞクリストのみならん、多くの聖人君子は必らずしも男質にのみ滿つるものにあらざる也。

夫れ一個の人に於て既に此の妙理を見る、一國に於けるの理亦た如此くならずんばある可らず。國唯だ武を以て立たば人權伸ぶることなし、若し唯だ文を以て立たば安んずることなし、軍氣蕭殺として慈善の涙かはくの國は天のあはれみを受ることを得ざる也、優柔順々として毅然猛然たるの元氣なき國は天の喜こびを受ることを得ざる也、藤原氏は和歌を以て天下を和らぐる能はず、戰國は戰ひを以て國家を治むる能はず、秦朝六國を縛することを云へども猛き繩も一夫の叫びによりて解くるとあり、漢末禮文に熟すと云へども文の章は民心を喜ばしむるに足らざる也、書に云く、文王に妃あり、德天下に布きて民風を和すと、解するもの云く、其天子唯り居まして國を美にすること能はず、賢后之を助けて天下初めて安しと、明治政府は上に英聖の　皇帝陛下を戴だけり、而して亦た仁慈利貞の　皇后宮陛下を仰ぐ、今の政治の宜しきを得る多きものは即はち　兩陛下の賜ものと云ふべし。

然るに今の民を見るに、其風未だ悉とく聖德に化せざるものあり、世上到る處ろに殺氣を見る也、仁愛の氣を見ること倘ほ極めて稀れ也。

誠みに政治家なるものを見よ、彼等常に揚言して云く、吾等は道德を知らず只だ政治上より論ずるのみと、あゝ憫れむべき哉、彼等は道德を知らずして人を治むることを得ると思へり、彼等は德なくして其子一人をすら化する能はず、抑そも何を以て天下人を導びかんとする乎、彼等は規則と租税とを以て國を經理し得ると思へり、如此き政治家は自から民を治めて落膽せずと云ふことなし、志あるの政治家は皆な歎ずるなり、民は器械を以て制すること能はず生命を以て薰せざる可らずと此は昔しの堯舜より今の周公に至る迄で常に皆な然りと同意せざることなし。

倘ほ法律と云ふものを以て至つて冷たきものと思ふものあり

甚しきは法律は道徳と全く別理の上に立つと思ふものあり、則ち法律はたゞ理を以て罪を斷じ、罰を以て世の悪を制し、毫末の情愛を混ぜざるものと思へり、此の如き法律家は今の止むを得ざるの法律を見て法律の希ふ所常に此の如しと妄斷するのみ、あゝ法律の希ふ所何んぞ常に此の如くならんや、彼れ止を得ずして今の如くに冷々たり、然れども其の冷々たるは則ち極めて温たかき所ろにして、彼れ亦た民の徳を立て、民の愛を通じ、民をして同胞の兄弟たらしめんとを希望す、其希望に於ては道徳論の望む所ろと異なるとなし、法律家の武斷は罪悪を杜絶するの勇なり、其勇のいよ／＼猛からんは、民を愛するのいよ／＼切なるのみ、法律と道徳と安んぞ別理の上に立つものならんや。

又た今の敎育を見よ、たとへば男子が子を抱きて養育するに似たり、信切ならざるにあらずといへども母が之をいたはるに比ぶべくもあらず、其の子弟を愛すると甚だ冷たし、其の子弟を薫すると甚だ淡し、未だ敎育者にして日夜其子弟の爲に涙を垂るゝもの多きを聞かず、或は金の爲に敎ゆるものあり、或は腰掛の爲に敎ゆるものあり、敎場に於ては或る解釋家の解釋を受つぎ、校外に於ては子弟を顧みるとすらせず、此の如くにして敎育それ何の日にか進まん。

又た今の事業を見よ、鐵道を敷くものはあり、鑛山を掘るものはあり、銀行を立るものはあり、外國貿易を爲すものはあり、事業の區域やゝ擴張せり、賀せずんばある可らず、然れども愛により情に充ちて計畫するの事業果して幾干ありや、元と犧牲の念を以て之を計畫し、終りに至る迄で献身して之に盡力するの事業果して何程ありや、吾人は啻に之を聞かざるのみならず如此き心掛は則ち事業上に宜しからぬものと云ふなり、經驗ある事業家の敎ゆる所を聞けば、事業は算盤と、掛引と、ウソと、人情を思はぬとに由りて成就すと云へり、左れば温愛の心得を以て事業を爲すと云はゞ彼れ冷笑して其事の直ちに破れんとを豫言する也、此を以て慈善の事業は人之を以て事業と稱せず、事業なるものは則ち金を儲ける事にあり與ふるとにあらずと云ふ也。

又た彼の戰爭を見よ、戰爭は元と戰ふものにあらず戰を治むるもの也、兩者正しきを守りて決するとなし、則ち止を得ず兵力に訴へ是非を斷ぜんとす、其望む所ろは治安を維持せんとするにある也、此を以て軍艦軍馬の夥たゞしきは戰を待つにあらずして戰を制するにあり、既に戰ふに至れば久しく

戰わんとにあらずして速に之を止めんとするにある也、然るに今の戰爭は戰爭に遺る唯一つの正分子をも悉とく滅却し、たゞ卑しむべきの鬼情を鬪かはせて下等の功名心を伸ばさんとするに至れり、此れ實に悲しむべきの事にして、天下の大患之に過ぐるものあるなし。然るに砲煙さかまき、劍光ひらめくの間だに尙ほ人情を現わすべきものあり、即はち傷つけるものをいたわり、捕へたるものを愍れみ、逃ぐるものを追わざるが如きこと是れ也、左れど今ま尙ほナイチンゲールを見ず、加藤清正を見ず、ウエルリントンを見ず、戰ひは依然として虎の相うち、狼の相かむに異ならざるを見る也。

今の世如此き現象を以て充滿す、皆是れ剛氣唯り跋扈して柔元の之に和せざるに由らぬはあらし、今の政治は男性のみの政治あり、今の法律は男性のみの法律なり、戰爭も、敎育も、事業も皆な唯だ男性のみの行わるゝにあらざるとなし、於此乎、到る所ろ殺風景にして、全地悉とくなまぐさし、其弊元は女性の之に和せざるにある也。

吾人が女學を主張するは啻に女子の爲のみにあらざる也、實に男子の爲め也、男女相和し初めて人間たるべし、一國に男女の兩氣相快和するに至りて國即はち強くして美あり、愛にして富むなり、文にして武たる也、人も國も天下も此に至らずんば未だ完きを得ず、吾人が希望する所ろのものは即はち陰陽を和して事物を圓滿にせんとするにある也。

今や撰擧にも爭ひを聞けり、政黨にも不和を聞けり、學問にも懷疑多きを聞けり、詩歌にも情少なきを聞けり、家庭にも學校にも交際にも社會にも愛乏しきを聞けり、即はち是れ女性を欠くの現象にして男質獨り武張り冷氣特に殺々たるの毒弊あるに歸せざるを得ず。

吾人は確信せり、男女は永久質を異にす、故に又天職を異にす、然れども之あるが爲に女は只だ家内にのみ閉居すべきものにあらざる也、天下到る處ろに男性の事業あるが如く亦た女性の事業あり、今の女子の一家に於て女たるが如く、世上に於ても、天下に於ても亦た女たらずんばある可らずと。此理至妙、而して至重なり、願はくは同胞の速かに之を覺知し、女元橫溢するの區域漸次に廣ろまらんとを、人類の爲に之を熱望し、國家の爲に之を熱望し、亦滿天下の爲に之を熱望す。

今や皇后陛下の聖誕日に會す、陛下、皇帝の德を助けて斯國に君臨し、仁德洽からざるなし、微臣謹んで之を奉祝し、少さか平生の持論を上申す、一意、國民が此の德に化するの速かならんとを祈るに在る也。

論説

女子と速記術とに就きて思ひ當りたることの一二

林茂淳

此の篇は去る四月五日林茂淳氏が明治女學校の速記科教場に於て演述せしもの筆記なり。

此の學校に速記法の學科が置かれたことを承ッてから、拜觀に出たいと思ッて居りましたが機會を得ませんでありました。先日拜觀の事を佃先生に御話しいたし、また巖本先生まで申入れましたところが幸に承諾を得まして、今日始めて皆樣方の御勉强の有樣を拜見することを得ましたのは、私共に取ッて幸なことで御座います。

佃先生から「私に何か皆樣に申上げる樣に」と云ふことで御座いましたが、別に皆樣に向ッて申上げべきことも御座いません。併し折角出まして御目にかゝッたことで御座ますから、女子と速記術との事に就き私の心得て居りますことの一二を極手短かに申上げたいと思ひます。

私は速記者と云ふ一つの業務上からの考へかも知ませんが、明治十五年の頃、源綱紀と云ふ速記術を考へ出しました方に就いて、速記術を學んで居りまする頃から、源と云ふ方の話しを承り、此の學術を御婦人方の職業の一つにしたら宜からうと云ふ考へは持ッて居りました。併し淺學微力でもあり、また他の仕事に從事して居りました所から女子の速記と云ふことに就いては別に手も出さず、また口も出しませんでありました。然るところ、このたび此の學校に速記の一科が設けられたと申すことを承り、大に滿足を得ました。且佃先生の如き實地の速記に熟練せられたる方、殊に御婦人方に速記を教授されることの經驗に於ては、此の廣い御國の中で類の無い御方が、此の學校の先生となられたことを聞き、實は皆樣に御悦びを申上げたい位に思ッて居りました。

速記術が御婦人方の御學びになるに適して居ると申すことは、明治十五年に前に申上げた源と云ふ先生から承りましたのが始めで、其の後其の方に就いて速記術を修業した御婦人方が三名とかあると承りました。また御婦人方にばかり速記術を敎ることとは源先生の御弟子で今申した三人の中の一人で、松島華子と云ふ御方が(只今は名古屋の愛知女學校とかに敎員をして居られるさうで御座いますが)明治十九年の一月、京都に婦人記音學會と云ふ會を設けて速記術を女子職業の一つとしやうと企てられました(其の會は今日はありませんが)。これが先づ御國の御婦人方に速記術を敎へやうと云ふ會の

始めであると私は存じます。併し、これは今日から考へますと丁度、卵の時代であッたやうに思はれます。

今申上げたことを除いて、女子と速記術との事に就いて、最も早く說を世に公けにされた方は誰かと申せば、私の見る所では明治二十年の末に、此の明治女學校の敎頭の巖本善治先生が御承知の女學雜誌に「女子と速記術」と云ふ論說を書かれたのであると思ひます。また、御婦人方に速記術を敎ふることを始めた方は、皆樣が師とせらるゝ佃與次郎先生が、一昨年の末か昨年の始め頃から、速記法女子研究會を設けて御婦人方に敎へられたことであります。また速記術を女學校の一學科に加へられたのは、全國に於て此の明治女學校が最も始めであると思ひます。實に、此の學校は、學校と云ひ、敎頭と云ひ、敎員と云ひ、女子の速記に就いて實に御縁の深い學校で御座います。故に皆樣方が此の樣な速記に御縁の深い學校で速記術を御學びになるのは、全國の女學生徒の中で最も幸な境遇に在らるゝことと存じます。

さて、皆樣方は速記術を御學びになッて居らるゝからには、此の學術が女子に取ッて、ドウいふ利益が有るかと申す樣なことは、私共が申上げるまでもなく御承知で御座いませう。

併し、此の事に付いて世間の人がドウいふ事を申して居るかと云ふことの大畧を簡短に述べて、御參考に供へたいと考へます。

先づ、最初に御國で今日まで出た說を申し、次に西洋でドウいふ事を申して居るかと云ふことを申し上げませう。

巖本善治先生は、明治二十年の十二月に、女學雜誌の第八十七號に「女子と速記術」と申す題で「日本人は男女に係はらす指先きの藝能に達し、殊に御婦人方が裁縫をなさる御手際などは西洋人が驚くほどであり、而して日本人の中で指の働きの極巧みなのは御婦人方であるから、日本の御婦人方の速記に適することは世界第一と云ふても過言ではあるまい、故に他の職業では御婦人方が男子に劣ることもあるが、速記術ばかりは確かに御婦人方の勝となるであらう、殊に段々と御婦人方の種々の會が出來ますが、其の中に男子の傍聽を許さない會が有りましても、御婦人に速記をなさる御方が無い所から、止むを得ず男子の速記者を招かなければならぬことになッて居る、志ある御婦人方は速に此の職に就いたら宜からう」と申されました。

また前に申上げた松島華子と云ふ方は、明治二十二年六月發

行の速記彙報第六冊に「速記術の看病婦に於ける効用」と云ふ題で、看病婦學の中に速記術の一科を設けねばならぬと申すことを丁寧に論ぜられました。

また同女史は、本年一月發行の速記彙報第十四冊に「速記術に志せる諸姉に告ぐ」と題し、「速記術を要する學問も種々あるが、女子の實業に適したものは、醫學、理學、工學、文學などで、醫學は能く女子に適し、且此の學を修めて世を益することは莫大であり、理學と工學は學ぶに快活で然も面白く、また女子に及ぼす益もあり、文學は一層女子に適するばかりで無く、優美温雅の中に女子の實業を助けます」と申されました。

また國民新聞記者は、本年三月十日の紙上に「婦人の職業＝速記術」と申す論説を掲げまして、速記術が御婦人方の職業に適することを述べ「御婦人方の精細なる頭腦や敏捷なる手腕を以て之に當るときにはキット成功する、殊に今日男の書生達がムヅカシイと云ッて中途で廢める者が多いから、これは一つ御婦人方の方で、性來の忍耐力を出して男書生を負かしてやる好機會である」と述べられました。

以上は御國の人の説で御座います。これから外國人の説の一班を申上げませう。

アメリカのボアンといふ御婦人は、學校を立てゝ御婦人方に速記術を敎へて居らるゝと申すことで御坐いますが、其の御方は「速記術は女子に最も適切なる學術なり、何となれば女子は男子よりも綿密なる性質を有すればなり」と申されました。

また、ケンシットといふ御孃さんは、一八八七年（明治二十年）の九月、ロンドンで開かれた萬國速記術大會に於て「女子と速記術」といふ演説をされまして、速記術の御婦人方の職業に適することを説明され「御婦人方に最も適當したる業は、あらゆる仕事の中で速記術が一番で、其上に腦力を發達させ記臆力を強め考へを精密にすることに付て効能がある」と申すことを丁寧に述べられました。

また同年（一八八七年）十月、ロンドンで出版になりましたクエンと申す雜誌は「速記術を女子職業の一科と爲すべし」と題して、速記術の女子職業に適することを述べました上、「從來の男子は己れの書記たるに適する婦人を配偶者に選ぶことになッて居るが、以來は速記者と細君との二職を結合し、一人にて兩業を成さしむる方が便利である」と申すことを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

説き、また「此の術に熟するのは生涯の利益であッて、彼の音樂を以て世に傭はれたいと求め、又は保姆の役に身を委ぬることに比ぶれば、品格の高きことと萬々である」と論ぜられました。

尙ほ申上げたいことも御座いますが、大抵同じ樣なことで御座いますから、あとは略しませう。

さて、御國では御婦人の方で、源綱紀といふ方に就いて、速記術を御學びになッた方は、前に申した松島華子といふ御方と、荒木もと子森杉つね子、といふ御方と、都合三人あると承りました。また昨年四月ごろ、彼の有名な中島俊子といふ御方も、速記術を御學びになるとか申すことを承ッたことが御座いましたが、ドウ遊ばしたか其の後承りません。

また、今日御婦人で速記術を實地に用ひて居らるゝ御方も、隨分ある樣に承ッて居りますが、私の御目にかゝッた方では、共立女子職業學校の教員をして居らるゝ山中甲子といふ御方だけで御座います。此の御方は、百花園の速記をして居る酒井昇造といふ方に就いて、御學びになッたと申すことで御坐います。また、昨年十二月、厚生館で廢娼演説會のときに、佃先生の御門生の大澤とよ子といふ御方と中村たま子といふ御方が、植木枝盛さんと島田三郎さんの御演説を速記あそばしたと申すことを承りました。其の他にも、御婦人で速記術を習ッて御出でになる方のあることを承ッたことは御坐いますが、今御名前を記臆いたしませぬ。兎に角、皆樣方の樣に良い學校で、良い先生に就いて、速記術の御稽古をなさる御孃さんは、他には決して無きことと信じます。

箇樣な次第で御坐いますから、私共から申上げては失禮かは存じませんが、皆樣方も充分に御勉强あそばして、學校の恩、先生の恩に御報いになるやうに願ひます。私共が習ひ始めました時分には、世間に演説などを書くことの出來るといふ人は、まだ一人も無かッた時分で御坐いましたから、習ッても出來ることか出來ぬことが知れませんで、夢中でやッて居りました。箇樣な譯で御坐いましたから、骨の折れることも今日皆樣方が御骨を御折り遊ばす何倍であッたか知れません。其の上に、人には「アイツは妙なものを習ふ奴だ、醉狂な奴もあるものだ」などと笑はれたことも度々御坐いました。然るに、今日は世間に上手な人が出來る樣になりましたから、御勉强次第で御上達になることも見えて居り、且又何ほど御骨が折れると申しても、私共の樣な不器用な男にさへ出來る

仕事で御坐いますから、まして綿密な性質と御器用な指とを持つて居らるゝアナタ方に御出來にならぬと申すことは御坐いますまい。また、今日は世間に之を習ふのを笑ふ人が無いのみならず、人々が其の効用の有ることを知つて參りましたから、此の學術に御上達になると、餘ほど世の中から尊敬を受けられるであらうと存じます。何卒充分に御勉强下さる樣に願ひます。アナタ方が此の術に御上達にある曉には、小さく申すと、御銘々の御身の爲めになり、また御父兄も御喜びにありませうし、此の學校の譽れにもなりませうし、大きく申すと、御國の御婦人方の品位を高めることが出來、隨ッて御國の威光を外國に耀すと申すやうなことにまでも、ならうかと存じます。

まだ申上げたきことも御坐いますが、存外長くありましたから、これで御免を蒙ります。長い間靜かに御聽き下された段は深く御禮を申上げます。

因みに記す、右の演說中に略述したるケンシット孃の「女子と速記術」と題せる演說筆記の譯文は「速記彙報」の第十七冊と第十九冊とに載す。

女子簿記學を學ぶの必要

右は餘白に乏しきを以て次回に掲載すべし

批評

森林太郎氏の駁書論

外山正一氏の書論を駁するもの、しがらみ草帋第八號に出づ、成程細かき所ろ迄得て駁したりと云へど、尙ほ外山氏所論の妙所を亡ぼすに足らず、蓋し外山氏の論は妙あるにあらず極めて普通なるなり、今日の書に對しては是非とも彼れの如くに叫ばざる可らざる也、固より一塲の演說に過ぎず、矛盾及び欠點は多かるべし、左れど大躰に於ては吾人あく迄も外山氏の所論に同意せざるを得ず。

ぼたもち小說……駄菓子小說　撫象子

ぼたもち小說の一評甚はだしく才子連の氣にさわりしものか、近頃ろさま〳〵の風聞あり、或人は云く、ぼたもちの外に燒芋小說あんころ小說ありと、實に左る者もあらめ、才子よ、若しわが言葉を以て俗なりとせば請ふ景樹の言葉を之に換えん、云く、秀逸の歌(小說)を菓子の味にたとふるに、今京に虎屋の金米糖其名あり、風味淡にして甘味しかもさら〳〵として舌に滯らず、外一等下れるものは甘美なるとは甘美なり、然れども濃にしてやゝ口に滯ふり、歯につくやうの氣味あり、之にひとしと。即はち駄菓子の評をもて代えんとす。駄

菓子は、容易く出來て、甘く、安し、而も子供の口に宜しきものとか聞くあり。

閨秀新誌

其第一號を見る、思ふほどに無けれど物は初より完きものにあらず、盖し追々に伸びる事あらん、吾人は之に寄せたるの祝辭を今重ねて申す、云く目下女學上の雜誌少なしとせず、然れど皆各々守る所ろありて絶へて滿遍に行はるべきものなし、惟ふに深く喝仰して未だ之を得ざるの讀者多かるべき也、則はち新らしき閨秀新誌の出でたるは祝すべきの事也。

女學生

第一號吾社より發行す、是非は素より自分より言ふべきとにあらず、左れど自分の思ふ丈けにも出來ざりしは頗ぶる遺憾なりと、大方其編輯人は悔ひけらし。

惡文學を禁止せよ

「芙蓉」の發行

大坂にて白日堂々遊廓者の會議ありしすら奇怪至極なるに、今亦た芙蓉などと稱する猥褻無上の雜誌を發行するに至りては天下淸議の爲に決して容し置くべきにあらず。第一號には極卑の畫圖數葉を挿さみ、中に天然美術と號し裸躰婦人の肖像を畫くに至りては不德一層極まると云ふべし、其他小説には戀わづらひの事を叙し、社説には藝娼妓の聲色を使ふなど、徹頭徹尾淫奔猥褻の文辭にあらぬはなし、今の内務大臣は何故に之を放任する乎、何んぞ速かに發行を禁止せざる。

豐臣太閤裂封册

依田百川、河尻寶岑二氏の作なり、二人婿、吉野拾遺などに比ぶれば更に優る如けれど、倘物足らぬ心地少しとせず、全躰の主旨目的とする所ろ明らかならず。和軍明地を退くの所ろに於て局を結ぶなど面白き趣向にはあらず。又た相頁德を通辨とすると極めて拙なり、之を通辨とせば通辨なき間の掛合は如何なる言語にて催ふさんとする乎。四幕目山田の住家並に大門寺客殿の所ろ盖し滿分の作なり、たゞ餘り在觸れたる心地のするを憾みとす、亦前後二回同じきやうの切腹あり、重複の感出でゝ面白味少なからん、倘ほ此段に淨瑠璃の乏しきは一の遺憾と云ふべし。序幕より三幕に至る迄でたゞ騷ぎ廻るのみ、くりかへし〱同じき樣の事にて實際看客に厭を來さん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

科學の原理

理學士木村駿吉氏の著なり。理學を脩るものは兎角唯物論に傾むき、上帝及び信仰の事を無みするものあり、之れ未だ理學の奥を窺ひ知らざるの失に發するものなれども多くの理學者が續々之に陷いるを見るは頗ぶる歎くべきの事なり、然るに著者は能く此に靈眼を開き、精はしく理學を愛重すると共に亦細かに理學の限界を覺知し、物法を重んずると共に深く靈性の事を大切にするに至ては、近世の日本に多く得がたきの卓論と云ふべし、理學上の僻見者もし之を一讀せば大に悟る所ろあるべし、靈學上の短見者もし之を一讀せば亦大に確しかむる所ろあるべし、研窮引證に勉めたるとの厚き近ごろ類の稀なるもの也。

物理學現今の進歩

同じく木村駿吉君の講述に成る、世界進化說、潮汐進化說の二章あり、最近の新理を平易に講述したるなれば、普通の讀者にも理學の面白味を味はしめ、斯道の爲に頗ぶる功多きものあり。

國文學

上田万年氏の纂あり、初めて安んずるに足るの敎科書を得たり、第二卷は未だ見るを得ず、左れど此の第一卷もて其大畧の雛形を知る也、近文より古文に溯ぼるは固より可し、但だ之を敎科書と爲さんには、一と卷の中にて讀易きを初めに置き難きを後に廻したきものなりけり。亦た余は漢文にても日本人の作りたるは成るべく平譯して國文に入れたしと思ふ、之れ亦た日本文學即はち國文と云ふもの丶中に重き關係を有するものあるがゆえ也、漢詩も亦た插はさむが好し、總じて今の日本文は此等の中より胚胎せしものにて、而して今后の發達も亦た此等を種とするものなるがゆえ也。一の作者の總べての作中、此に採用したる撰び方の善きを得しや否やは今直ちに明言すると能はず。

理想紳士、理想佳人の資格

懸賞文の答案次號より掲載

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

豐田芙蓉女史を訪ふ

碓氷山人

天晴れ氣朗かに靈神轉た快く覺えぬ、依而豐田芙蓉女史を飯田町四丁目の寓に訪問しつ、種々の高說を承りぬ、今其主もなる諸點を摘錄し、讀者の高覽に供せん、女史は

水戶藩士藤田東湖

の姪 豐田某の未亡人なりとぞ、維新前天下漸く騷ぎ、人心次第に動くに當り、諸藩糸の如く亂る、家を去て難に倒れ異鄕の露と消ゆる者あり、親戚と別れて戰に死し、悲みを百歲に止むるあり、親子離散し夫妻支裂するもの數を知らず、殊に水藩の諸士災に罹るもの多かりき、女史の良人も不幸にして京都にて難に失せ玉ひしとぞ、久しからずして維新の改革成り、明らかに治る御代とはなりぬ。明治五年茨城に於て女學校設立の擧あるや、女史其敎授を委せられぬ、此處に敎授せられし事三年。明治八年

東京女子師範學校創立せらる

女史召されて女子師範校に敎授となる、爾來終始一の如く女子敎育に專心せられし事十年。此に師範校を分けて高等女學校を置く事とはなりぬ、女史は此時高等女學校に轉じて敎育の任を負はれぬ。女史が師範校に師たりし頃なりけん、我等が記臆し且感ずべき一事あり、其頃は未だ敎育の事隆盛ならず、學校もいと少なく、敎導開發の道立たざりき、然れば

幼稚園なるもの未だ無かりけり

此時に於て女史獨逸人某と同心協力之が設立に力を盡されぬ、凡そ何事も創むるは難し、未だ西洋の樂器少なく、唱歌もなく幼兒を敎導するの具整はざるに際し幼稚園を創めんはいと難事にてありしならん、女史は克苦の末西洋唱歌を譯出せられ某畵伯に托して日本の樂器に符合するの譜を書しめしとぞ蓋し未だ西洋の樂器なかりければなり、畵伯は和琴を撰み之に合ふ譜を作りしとぞ、女史は此和琴を奏して兒童に唱歌を敎え、以て幼稚園の基を開れしとぞ。當時諸般の器具未だ欠乏せるの際斯くまで苦心勞力以て我國敎育の先導をなされしこそ、重ね〴〵も我國の爲めに深謝する所なれ。明治廿年德川公使に從つて伊太利國に渡航せられぬ。彼國に滯留せらるゝ事二星霜なりしとぞ、此に於て余は問を發して

伊國婦人の狀態如何ぞや

と云ひぬ、女史曰く西洋諸國中英米兩國は婦人の權勢甚だ强し、例せば滊車に女子の乘るあれば如何なる男子も席を讓るべき風習あるが如し、歐洲大陸諸國の婦女子は斯く權勢を張らず、柔和温順よく女徳を供ふ、女子は常に家に在て內事を治むるを專らとす、故に家庭よく整備して諸事順序あり我國の人やゝもすれば云ふ佛國の女子は華美虛飾に流ると、然れど是啻パリーの婦人社會のみを見たる者の言にして佛國全土の婦人は決して然らず、家庭よく整ふが故に人々給す、他より之を見れば華美とも見へ、虛飾と思はる、其實は人々其分に應じて修飾裝具するに過ぎず、其家庭の整備せる事實に驚く計りにて我國の家庭とは雲土の差ありと云ふべし、伊佛兩國家庭の狀態畧ぼ同じ。余次で問ひぬ

彼我女權の異る所何處ぞや

女史曰く伊國の女子は柔順にしてよく男子に從ふ、故に一家總督の權は主父若くは主夫にありて細末の小事も家主の許なくして女子の占斷する事なし、此點に於ては我國と大差あるなし、只主人たる者其權を恣にせず如何なる事も悉く女子に謀りし上舉行する所即ち彼我同じからぬ點ならめ、亦彼國に於ては女子一人戶外を行く事絕えてなし、我國現時の女子を見るに或は書物を携へ或は石盤を抱へ、獨り街頭を橫行濶步するもの甚だ多し斯る風習はよからぬ事と思はる、是亦彼我大に異る所あるべし亦

男女の離隔いと嚴し

西洋と云へば男女交際自由なるが如く思ふ、實際伊國の狀態を見れば決して然らず、親戚ならぬ男女室を同ふする事なし、殊に青春妙齡の淑女令孃と男子と近づく事は固く禁じ、若相話するの必要あれば必らず一人之に陪席す、容易に若年の男女のみ對話するを許さず、亦手紙の往復も許さず若許すあれば必らず父母の面前にて開封せしむ、非常の信用を得るに非るよりは自由に文通せしめざるを常とす、彼國の婦女子は運動の爲め公園を遊步す、されど其步するや一人ある事なし、必らず友人を伴ふ、其友人は青年男女相混ずる事なし、女子のみ若くは男子のみ伴侶たり、男女の離隔嚴き事斯の如し、

彼地の女子敎育の模樣

につきて問ひぬ、女史曰く彼地普通女子の敎育は高からず、單に學力の點より云へば我國の敎育ある女子に匹敵する位ならん、彼地にて敎育の順序は第一小學校を修めしめ、次ぎに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

職業學校、商業學校、女子師範校、高等女學校等の內何れをか撰びて入學せしむ、斯る學校にて修業年數大抵六七年とす、されど其好む所の學課を撰びて專修するあり、家庭に在て一二學課の敎師を雇ひ以て修學せしむるあり、敎育の方法同一ならず、其敎育の目的は其家に在るの日によく學課を適用するに在るが如し、即ち敎育は實用を主とするにあり云々。余は此處に於て

我國現時の女子敎育

につき改良すべき所及び女子の欠點等を尋ぬ、女史云はるゝ樣改良すべき諸點素より少なかるまじ、されど枝葉の繁茂を望まば根本に培かふに如かず、諸般の改革を爲さまく希はゞ其原因を改むべし、所謂原因とは家屋の制之なり、家屋改良成らずば平時坐作進退に不便を感ず、故に萬事整はず、其結果や施て家庭敎育に及び、兒女の誘導宜しきを得ざるに至る、亦今日女子をして女學校に學ばしむるも其家に入りて學課を應用する能はず、爲めに敎育ある女子は家事俗務に通ぜず、社會の實用に適せざるが如く見ゆ、此に至つて人、女子敎育の果して必要あるや否やを疑ふに至る、遺憾之より甚しきはなし、故に最も大切なるは

家屋改良にあるかな

されど此事は到底急になすべからず、五十年の後なるべきや百年を待つべきや預じめ定め難し、定め難けれども必らず早晩成さゞる可からず云々と。余は亦問ふて御身は伊國御滯在の節何を修め玉ひしやと云ふ、女史云ふ主もに彼地の女子社會の摸樣を調査し殊に家庭敎育の事に深く意を留め亦佛語を學びぬと。次に余は亦問ひぬ

御身が今後社會に立て働かるゝ方針は如何にや

女子曰く暫らく此地に在らざりしを以て未だ社會の狀態も精しく知るを得ず、是より徐ろに爲さまく欲す、爲す所は女子敎育及び女性全躰に關はる事柄なり、即ち我國女子の爲めに盡さんとするに在り云々。之より暫時四方山の事杯雜話して別辭を述べて歸りぬ、女史の親戚に病に罹られしものありしにも關はらず、懇に話し、丁寧に敎へ玉ひしを深く謝す、若し以上述べし所にして誤あらば幸に再敎を玉へ、亦不敬の語句あらば海恕を乞ふ、廿四日夜倉卒の際に錄す。

女性冷待の文學上に於ける影響

香軒

吾人は之をアリストフェーンスに聞く曰く女性の冷遇は文學の衰頽を來すと、彼は歷史家として亦詩人として古代の大家にてありき、彼よくアゼンス及其他希臘諸邦の風俗敗頽を摸寫したり其摸寫の巧緻精到なる他の歷史記錄の遠く及ばざる所なり、今世に至り歐洲諸邦の文學即ち詩歌、文章等の有樣如何と察するに全く上等社會殊に婦人の愛好する所となれるを見る、之を見て文人著作家すら大ひに其不可を唱へ、文學は斯く婦女子の手に委すべきものに非ずと云ふ、是一理なきの言に非ず、左れど遠く眼を放て古代の有樣を見れば亦之に反する所の現象ありしを知る、即ち歷史の示す所に依て女性の勢力地に墜ち文學は男子の占有せし事を知る、太古に於ては女子の位置高く、自由なりし事、ホーマーの詩を見ても明けし然るにアゼンス繁榮の時代に至つて亞細亞の風俗を入れ漸く女性を壓制しぬ、此時に當り二種の政黨あり互に鬪爭し水火の如く相容れざりき其結果や女性壓服の弊風を招きぬ、然し希臘全國斯くありしにあらず、スパルタの如きは女子の位置高く女權强かりしあり、左れど全躰より云へば亞細亞の風俗全國に充ち女子の位置卑くなりぬ、之が影響によりて大に文學の衰微を來し諸般の開化に比して文學は甚だ進まず其最も名著と稱するものすら女性の溫雅なる所少しも加はらず斯る大切の關係あるを知ずして猥りに女性を壓制せしは誠に悲むべき事と云ふべし之を知らざりしが故に古代の作者殊に希臘の作者が著はせし所は（其文明に比して）甚た不完全なりき社會腐敗するに從て女性の風習も壞亂し爲めに社會の下層に沈み人の度外視する所となる、古代に在りて高尙優美の著作は斯る時代に出でし事なし云々。是れシユレーゲル文學史中の一節に云ふ所にぞある、吾人は之を見ても速く我國女性の位置高くなり其文學上に好影響を及ぼさん事を希ふて止まず、今日の女性夫れ是を記せよ。

改革者の一要素

かすみ

老人と少年とは心持の格外に違ふものなり、老人は兎角用心深く物事に臆するの氣味あり、少年は常に性急にして事を輕んずるの弊あり、左れば少年は老人を目して因循とし、老人は少年を目して輕率なりとし、共に相合するとなし、此に於てか眞の改革は常に行れざる也。蓋し眞の改革には熟慮と斷行とを要す改革に熟慮を欠時は天下混亂の基となり、之に斷行を欠時は事常までも行はるゝの日なし、左れば眞の改革には老

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人少年の二つを要するなり、若し少年のみ之に當らば國家大浪に浮べる木の葉の如けん、若し老人のみ之に任ぜば深山の大石苦むす迄も動かざるが如けん、老人の熟慮に少年の斷行を合せて大事初めて成るべきなり。願ふらくは少年、諸君先輩を輕しむると勿れ、又願ふ老人諸君、徒らに少壯の人を以て何事も成し得ざるのものと做し、之を輕んずると勿れ。子路、孔子の志を問ふ、孔子曰く、老者には信ぜられ少者は之を懷けんと、眞によく改革者の希望を述べたるものなり。

聖人の恨

も　み　ぢ

誰か聖人を以て恨みなしと云ふや、日に三省し、夜に長恨す、徳に進まざるの歎き何事よりも苦しきものなり、佛言はく、道の爲にする者は牛の重きを負ふて深泥中を行き疲れ極まるとも敢て左右を顧視せず淤泥を出離して乃はち蘇息すべきが如し情慾は汚泥よりも甚し直心にして道を念へば苦を免かるべしと、此邊の工夫、聖を學ぶものにあらずば知とかたし。

謹しみて苦しみ侍らん

み　ど　り

あな苦しき哉、わが氣力あに石の如くならんや、我肉あに銅の如くならんや、わが兄弟はわが望みを充たさゞると溪川の如く、溪川の流れの如くに過去る、それ人の世にあるは戰鬪にあるが如くならずや、又其日は傭人の日の如くなるにあらずや、奴僕の暮を冀がふが如く、傭人の其價を望むが如く、我は苦しき月を得させられ、憂はしき夜を與へらる、我臥せば乃はち言ふ何時夜あけて我れ起き出んかと、曙まで頻りに輾轉す、わが肉は蟲と土塊とを衣服となし、我皮は愈てまた腐る、わが日は機の梭よりも迅速なり我れ望む所ろなくして之を送る」と此は是れ自利の念ひを以て世を見るの人の言ふと也、若し世に大能者あり慈仁にして天下を正しく治しめすことを思ふときは、あゝ神よ斯くわれは悟らざるとを言い、自ら知らざる測り難きことを述べたり、汝は一切の事を善きに爲し玉ふ、われは但だ汝の天地を見奉まつらんとこそ云ふべき也。

盜賊の入りし時少女の行狀

橫濱二百十二番共立女學校

本誌前々號に掲げたる少女賊に傳道すの一事に付倘ほ細報を得たれば左に記す

拜啓貴社ます〳〵御繁榮欣賀ゝゝ扨此度の芳問に對して左に事實を略陳し正誤に易ふるものに御座候。

各新聞紙の記する所によれば共立女學校生徒寄宿所へ賊のい

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りて衣服金錢を奪ひし如く又其際或る生徒が賊に向て敎を說きし如くに載られたる新紙もありしやに候得共右は事實に相違するとあれば今これを述んに本校構內に別に一家屋を設けてバイブルハウスと稱し此には重に年かさなる姉妹即ち信者をして傳道に從事せんとを望む者を寄宿せしむる處あるとは貴社などは御了知ならんが過る三日の夜此バイブルハウスへ賊二人侵入したるが其時寄宿の姉妹はいづれも安眠してありしが賊のいりたるに心づき一時は驚きしも忽ちに神に祈をさゝげしかして賊のなすがまゝにまかせ置しに樓下樓上の部屋〳〵をめぐり各姉妹を呼起して頻に金錢の有無等を尋問して衣服をさらへ金錢を出してこれを奪ひたるが各姉妹は敢てさからはでひたすら神に祈禱をさゝげたりし由中にはいともおちつきて自己の蟇口のあり處を賊にしめし其とるにまかせんとせしも賊は其蟇口をおちつきたる姉妹にわたしあたへ金をいだしてくれよと云ひしとぞ又或る姉妹は衣服をとられんとするに至り其衣服ははる〴〵故鄉より着用し來れるものなればそれをかへしてくれよかしさすれば此にいさゝかの金もあればそれをあたへんと云ひしかば賊は又之をゆるして衣服をかへして金をとれりとぞしかして賊の去らんとするとき此金圓を出して衣服にかへたる姉妹はしばし待べしよきものを與へんとて聖書をとり出して賊に示し之を讀得べきやと問ふに一人は讀得ると答へしも一人はそれは無用物なりとて持かへらざりしよしかくして後賊は立去りしが後日賊が捕れて警察署にありしとき盜難にあいし姉妹はいづれも呼出されて出頭せしが其際聖書を賊に與へんとせし一人の若き姉妹は飽迄も聖書を賊に贈らんとの精神にて或る經驗ある兄弟に其由を告げて後警察署へ趣き警部に對面して其意を述しに警官も其志を嘉し賊が改心の爲にもとて之を差入さしめたる者也し。

右此度賊のいりしとに付て各新紙の誤聞の起る事實に候亦此際バイブルハウスの姉妹が最も感淚を流したるは平日敎導を蒙る敎師ピヤソン夫人の熱愛ある賊のいりたるを知るゝや眞に生命をも賊にわたすの決心にてバイブルハウスへ深夜臨まれしが賊の既に去りたる跡なりしかば熱心に神にいのりて賊の速に捕れんとを願はれしとぞ然るに不日賊の手がゝりを得て速に縛につきたるとあるが其時に或る探偵吏は各姉妹に對して眞實を顯はして云ひけるは此度かくも速に賊の捕れるゝは是れ諸姉の日頃信じ給ふ神の利益なるべし我は年來肺病にて苦めり希くは諸姉よ我が爲めに神に祈りてよと述べた

りと此人いまだかつて教をきかざる人ありしかば各姉妹は此事に付て非常に神の榮光の著しくあらはれたるを感謝せしとのことに有之此は是其あらましを述ぶるのみに候へばよろしく御掲載被成下度祈願に御座候各姉妹いづれも姓名をあらはすことを欲せられず故にこれをはぶく但し或る新聞に佐藤氏とあるも此は相違することにてバイブルハウス中に佐藤と云へる姓を名のる姉妹は無之事拙筆をかへりみず貴酬迄に早々。

無名氏の寄附

前號編輯了りし時、左の書面に金十圓を封入し、横濱よりとして無名にて惠送せる人あり、不取敢餘白に記し置しが、今更めて左に其文を載す、額は多からずとも志は海洋よりも深し、

日々の新聞紙及び雜誌毎號揭載相成候細民の慘聞實に酸鼻の至りに耐へず候此際何とか救濟の方法を講じ是を行ふこそ吾人が爲すべきの事に心得候就ては同封金十圓有之候に付惠與方然るべく御取斗被下度候其方法は都て御任せ申上候へ共養育院等の種類の者へ御寄附之義は御斷り申上候小額にて御手數にては候はゞ此方より何とか申上べく迄御預り置被下度候　早々

五月十九日　　　無名氏

女學雜誌社御中

此手紙着致候はゞ誌上に一寸其趣御記被下度候

社員協議し、下谷兩教會、兩國教會、等の有志者が申し合せ、實際貧しき人を見舞ひ、警察吏に相談の上惠救するの會あり、之に寄附しては何如やと定めぬ、無名の寄附者もし不同意なくば左許し玉わんことを、其お答を請ふ。

土にて粥を造る事

(鳩翁道話抄)　池田吉太郎

去ぬる天保癸巳の年、米穀のあたひ貴く、遠國には、飢渇におよぶ人も、多くあるよし、聞えました、さる御歷々樣、不便の事に思しめされ救荒一助と題して、松の皮、藁、土を食するの法を、御ためしあそばされ、板にえりて、ひろく諸人にほどこされたまふ、御仁惠のありがたき事、申すもおそれあり、去れども、百年のいのち、自然その製法を、うしなひまするとも、あらふかとぞんじまして、恐れをもかへりみず、今その一法を、御披露申しまする、松の皮、藁などは、不自由なる地もござりませう、土を食する事は、いかなる飢饉にも、盡る期なく、實に未曾有の良法でござります、どなたもヨウお覺えあされませ、救荒一助の文に

土粥の製法　或官醫の家法あり

一　土はいづかたの土にても、砂、石のすくなく、土きよきを撰び、土壹升に水四升入れ、桶の中にてよくかきまぜ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

上水をさる事數へん、また水四升入れ、よく〳〵かきまぜ、別の桶に入れ、底にのこる沙石を去り、又水四升入れ、前の如かきまぜ、水にひたしおく事、三日のあいだ、一日に三べんづゝかきまぜ、すまし上水をかへるなり、葛の粉わらびの粉を、水飛する法のごとし、右の如く製造せし土へ、水貳升入れ煮てうすき粥のごとくして食ふ、其うちへ、菜大根など切こみをおじく煮て食ふもよし、一日に三合より五合までくらふべし、誠に此法をもちひば、五穀を食せざれども飢ず、身躰つよく、すこやかなりとぞ。

ホイットニイ氏の書簡

ミ子譯

近來益々廢娼の事に御盡力被遊候段誠に天下の美擧と存じ且つ御心事の程深く奉察候、余の考へ候所に依れば人民の多數は公娼買賣の不可を未だ認知致さずと存候、故に第一其不道德なる事を摘示し亦社會に斯るもの〻存するは大ひに世を毒するものなる事を確知せしむるを最も必要と存し候善良なる社會には決して蓄妾及娼妓の公然と存ずべきものにあらずと存候。

統計表に依り其結果を示して公娼の廢すべきを知らしむるは到底六かしき事と存候たゞ〳〵基督教道德の感念を人民の腦裏に浸染せしめ以て其不道德なる事を示し道理性に訴へて以娼妓の下等なるを知らしめ候を最上の方法かと相考え申候誠に悲しむべきの至に候得共法律を以て人の情慾を抑へ候事は甚だ難かるべく候、されど基督教の思想浸入致し候得ば斯る不潔汚穢のものと接する者少々なるべく從つて社會を害毒する事狹隘なるべく候、社會の人心淸淨となり不潔物の存するを忌み之に接するものを惡む樣相成候得ば基督教の功力明らかに現はれ候事と存候是未だ、希臘、羅馬の古國より今日に至るまで基督教の感化及ばざる所に於て見ざる所に御座候、故に基督教の感念を社會に浸入せしむるは最も大切なる事と存候。

米國公使館

ホイットニイ拜

女學雜誌記者閣下

家の手わざ

天知翁

養鷄月々の仕事

何事を爲すにも順序は大切なるもの也、心掛け良き妻君は多くの用を取扱ひながら少しも忙がしぶらぬものは、能く此順序を誤らずに爲すが故のみ、家禽の事も亦此の如くなるを以

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て此注意肝要なるべし。

一月は。家禽上閑暇の時にして産卵するもの割合に少し、併し「スパニッシ」、「コーチン」種の如きは此月も亦産卵するなり、冱寒の時故へ成可く鷄舍を溫暖乾燥ならしむ事に注意すべし。

二月は。母鷄の用意を爲して伏卵に關する總ての準備を整ふべし、其巢鷄には殊更に餌と水とに注意し上等なる籾又は玄米、糯米等を宜しとす、又砂浴の場所を整ふべきものとす、總て軟かなるものを食せしめず必ず乾きたる粒を與ふるを通則とするものなり。

三月は。母鷄産卵を休めて伏卵を始め其早きものは既に雛を出すに至る、因て宜しく此等の手當を怠るべからず。

四月は。追々暖氣催し來るを以て家禽の業に必要の月なり、雛の發生する事最も多き時なれば、食物、管理等最も注意すべきを要す。

五月は。家禽者の大に樂しき月にして、既に雛となりしものは著しく發達し、又伏卵中の母鷄も之れある月なれば、注意と面倒なる手數を怠るべからず。

六月は。土地に由り既に蚊の出る所あれば能く注意して雛の巢箱には必ず蚊帳を施すべし、親鷄にも亦是れを要すと雖ども若し其事行ひ難き時は、每夕其塒に歸らんとする前に杉葉或は蓬等の蚊燻材料を用ひて燻すを可とす、若し之れを放置する時は雛は生育を妨げられ親鷄も産卵を止めて疾ひを起すに至るべし、又此月は早く孵化せし雛は既に頗る發育せるを以て、宜しく其雌雄を視別けて雄鷄一羽に雌鷄十羽を一群とする目途を以てこれを撰み、不用の殘りものは是れを肉用とするか或は販賣すべし、從前農家にて行ひ來りし如く不用のものをも其儘に置くときは其不經濟なるは勿論にして、且發育蕃殖上甚だ妨げとなるものなり。

七月は。最も鷄舍を清潔に致すべき時にして羽虫の害蔓るの時なるを以て、屢々石灰水を注ぎ又は之れにて舍内を洗ふ事を要す、又食物と水は專ら清淨に注意し且靑菜は一日に二回程與ふる事を怠るべからず、若し手遲れ等の事より據なく卵子を抱かしめんとする時は巢箱を清潔にして石灰を其底に散布し且空氣の流通良き所に蚊帳を施して靜置するを要す、其箱は十日に一度も叮嚀に掃除すれば宜し、此月にも亦雛を視別けて不用のものを賣却する事に心掛くべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きよめぬ庭

其十三

洒落齋主人

書てもよめぬわが文

書は以て姓名を記すに足り、劍は一人の敵なり、と云へる楚の項羽の我慢言あるを幸ひに、文書くこと習はぬ人あり。元より文の文字美事にかゝんよりは、文の言の麗しからんこそ望ましけれ。古の諺言にも、手書あれども文書なし、と云へるは此なめれ。されど手跡と云へるものも、たえず習たらんうちには、しらず〳〵美しふなりもてゆくものなれば、學の窓の隙あらんには、習ひおかんも亦た役なきにはあらじ。さればとていつも〳〵、手跡の美しきに似もやらで、あて字、うそ字などかゝんは、手跡少し見にくきも、言の文ありて、意の通じたらんこそよけれ。

さるに世にはごまかすとか云ふことありて、午後、午前の午の字知れざるとき、牛の字をはめて知らぬ貌し、或は自らの手跡つたなきを覆はんとていつもなぐりがきとか云へる書ざまするものあり、こはいとにくし。なにさま文字とは言の代りとなりて、意を人に知らするものなれば、文かゝんときは文字の形わざやかにかきたらんぞ、いとよしと思ふなる。わなみの親しふする、あるやむごとなき貴人の家に藏られたる本居宣長の翁が

文机の四くさのものをよめる

と云ふ題にてよみたる歌の中に

言の葉にいはぬ思ひをかきやりて筆ぞ心の使なりけり

と云へるもいとをかし。

日曜鈍澤と云へる庸醫ありけり、元より學文などしたるにはあらず、されど父より醫師の家なりければ、病家もありけるを幸に、父のみまかりし後は、醫師を業となせど、此とてもほんのおもてむきのみにて、婿嫁の周旋などし、病人の少き間は、俳偕のわざ少し心得たればとて、宗匠の氣取にて居たり。或る日同じ町の若者等三人來りて、「此頃開帳中の黒本尊のある芝の御寺は、私は增上寺だと云ふに、此の男は上增寺だと云ひまッ」後の一人進み出でゝ「私は增々寺だと云ふのです、されば先生は點者のことなり、どうか此の三つへ點をつけて下され度」とて卷を出して歸れり。明る日になり三人の者、鈍澤老の庵をとひて、前の日の點削のこと、いかゞにやとたづねければ、此の中にとて卷を出ぬ、開き見てけるに

増上寺　めづらしからず　ふるし
「上増寺　等類多し
「増々寺　ちか頃あたらしく候　珍重

と記しありければ終の一人ぞ巻をとりけるとあん。

此の鈍澤老、元より手跡ことのほか拙かりしを、宗匠を氣取りしのち、なにとかしてまぎらはさんと、切りにわれかれの古法帖ども習ひたり、さればさきの手跡、いやが上にもかき崩されて、今は已にさえ讀易からぬほどになりぬ。或時心やすき友の方へ、文かきおくりけり、友なる人、此の文うけとりて、開きみれど、一字も得讀まず、いかにもなしがたく、そのまゝにおき二日三日すぎたるのち、序のありたりとて、鈍澤老の方に立寄りつ、此頃は文よこされたれど、わなみには一字も得讀ぬまゝ、そのまゝにことおきしが、今日は幸ひ此の邊まで來ぬ、文の字どもたづねんとて、前の文もち來りぬ、此はあにと讀む可きにやとて、さし出したり。鈍澤うけとりて繰り披き見れど、已にさえ、一字も得讀れねば、額の邊に大汗ながしながら

「そなたも氣のきかぬ人やな、文の文字解らぬなら、こちらの忘れぬうちきゝに來てくれゝばよいに」とていたく不機嫌なりしとぞ。

小説

うき世　其二

かほる

空の空、空の空なるかな、萬物空より出で、亦空に歸る、生者必滅の理は天地に亘り、會者定離の法は古今に通ず、凡そ生とし生けるもの何者か亡びざるべき、會ひとし會ふ者何人か別れざるべき、日出でゝ沒し、水流れて止まず、萬物悉く滅びの淵に進み行く、嗚呼實にはかなきは我世なりけり誰か世を樂土と云ふや。

されど物、生くるに時あり死るに時あり、出るに時あり滅ぶるに時あり、其時に從つて生出死滅する、亦何をか悲まん、只時ならぬ死滅をこそ悲しと思ふなれ。

余は母に別れぬ、時ならぬ時に別れぬ、老少不定の世とは知りながら悲しさやるかたなし、過る月より病ひ強くなり、身躰も衰へぬ、神經は鋭くなり、感情は深くなる、見るもの、聞くもの、母を思ひ、昔を忍ぶ媒とならぬはなし、アヽ今宵も早や夜半を過ぎぬ、胸痛み、呼吸いと苦しく、脈も亂れ搏つ、アヽ苦し、されど何れ長らへぬ露の命、消え行く末はたのまれず、明日知らぬ身にしあれば、余が聞き覺えしだけ記さん爲め、いで今一筆を書續けん、稚昔に立歸りて。

余は稚き兒女と打連れ、遊びより歸りぬ、早や午餐なりとて人の呼びたればなり、頑是なき稚子にてありければ余は母の身まかり玉ひしを悲しとも思はず、片手に棒を打ふり、躍りつ飛びつゝ家に入りぬ、家の內の賑はしさにいと嬉しく、父上と呼びつゝ奥の室に入りぬ、父上は火鉢の側らに愁然として打しほれ居玉ひぬ、余は常の如く父上の背にとびかゝり、兩手を伸して父上の頸に纏はりけり、父上はものをも云ひ玉はず、徐ろに首を擧げ、余を膝の上に引きよせつ、余の顏を打まもり玉へり、余は見るともなく父上の顏を見れば淚注ぐが如し、父上は余が母の別れを悲しとも思はず、あどけなく遊び戯るゝを見て憐れと思されたりけん、余は其意を得ねば父上などて泣き玉ふぞと云ふ、父は倘何も云ひ玉はざりき。

伯父君が奥より出で來玉ひて余を召びぬ、余は立つて伯父に伴はれ奥に入りぬ、今より思へば母上を棺箱に入るゝに先だち余を母に遇はせん爲なりけん、余は斯くとも知らねば母上とよびつゝ母の近く行きぬ、見れば母上は白き衣を着け、安〳〵と打眠り玉ふが如し、髮も常より美くしく結び、沐浴もし玉ひけん顏せいとうるはしかりけり、色は愴白かりけれど。

大ひなる箱、母の側らにあるを余は認めぬ、余はそを何に用ゆるやも知らず、母の側らに坐し母の懷を打まもりつゝなつかしと思ひぬ、乳を吞まゝく欲せしより、余の伯父は余を母より引離しぬ、人々見て淚を流し居たり、余は只不思議の事と思へり、嗚呼母の側らにありて其身まかり玉ひしをも知らで斯く頑是なく擧動ひしこそ悲しけれ、アヽ今少し長じ居たりしならば母を見覺えたらんに、見覺えたりとてやくなし、されど余は母上の顏なりとも知りたし。

人々は母を抱き起しつ箱に入れんとす、余は驚きてながめ居たり、やがて一人が鉄槌を取り、棺箱に蓋して釘うたんとす、余は叫び出だせり、棺箱の近くとびより、打なきつゝ手をあげて、棺箱の蓋を取りはづしぬ、人々見て憐れがり、流石に釘うたんともせず、茫然として佇み居たり、斯くてあるべきにあらねばとて、人々余を慰めて母の側らを去らしめんとす、余は釘うつなと約してそこを去りぬ。

山の端の村雲は集りつ亦散りつ、神無月の空、曇み霽れみ、定めなき世の樣もあらはれて悲し、木枯高くふきすさび、白雪まじり散り來る木の葉、わら屋の軒を亂れ打ちぬ、四望慘憺畫なほ悽かりき、午後の三時頃にてありけん、外に鐘の聲聞えぬ、余は庭に馳せ出でぬ、やがて人々集ひ來にけり、何

か面白き事もやあると余はながめ居たり、奥の戸を開けて棺箱を舁き出す人あり、余は直ちに其側らに行き、母上は何處にぞと伯父君に問ひぬ、伯父君は涙ながらに棺箱を指さし、母は彼處に在ますと云ひぬ。

人々行列をなし、棺箱を擔ふて行きぬ、余は伯父君に抱かれて棺箱の後に從ひけり、庭を出で、籔下道を過ぎ、一丁餘にして墓原につけり、此處に暫らく葬りの式ありけり、式終りぬれば棺箱を穴の近く舁きよせぬ、余は驚きて見居たり、間もなく棺箱否余の母を穴に入れんとせしかば、余は叫び出し、母上を穴にな埋め玉ひぞと云ひつゝ泣きぬ。

余が都に上りて後の事なりけり、余が敬重せる教師の父君失せ玉ひ、其遺骸を葬る時、集へる人々「波風のなきうき世のなかにも……」と歌ひぬ、教師の姉にて在はせし人之を聞て悲しさいやまし、聲をあげて打なきけり、心ある成人すら倘然り、母の身まかり玉ひしをも知らぬ稚き心にて、母の土中に埋められんとするを見て悲みしも、理りなりしと今も思ひ出して打泣く、余が泣きければ人々流石に困じ果て、暫し言葉もなく互に顔を打ながめ居たり、余を彼是宥めつゝ遂に棺を埋めぬ、余は見て痛く泣き叫びぬ、人々皆頭を垂れて泣かぬはなかりけり。

暮雲山に歸り、鳥は棲にいそぐ頃とはなりぬ、暫し霽るゝと見し空に亦黒雲卷き起り、四面薄暮を催ほし、山寺の晩鐘は寂滅爲樂と鳴り響きぬ、人々家に歸らんとす、寒き風に誘はれ亦村時雨降り來ぬ、雨に和して流るゝ愁涙に衣襟を霑ほさぬ人なかりけり、余は墓より歸らじと伯父君に云ひぬ、伯父君は母は後より立歸り玉ふべし杯云ひすかしつゝ余を抱きかへりぬ、余は殘り惜しげに墓を見かへり／＼、歸りぬ、家に歸りて後も倘歔泣は止まざりき。

葬式の日は果てぬ、夜に入りて何心なく床に就きぬ、夜更くる頃目覺めて乳を呑まんとて、側の人の懷を探りぬ、乳はなかりければ余は痛く泣きぬ、余を抱きて寢ね玉ひしは父上なりき、母上にては非りしを、父上は何とも詮方なく起きて余を抱きあげ余を搖り、余がスヤ／＼眠らんとするを見て床に就き玉へば亦泣き出し、亦起きて抱き上げ玉ひぬ、遂ひに夜更くるまゝ余は泣き疲れ、泣きつゝ眠りにつきぬ、余は只あどけなく泣くのみなりき、父上の苦しさ悲しさは如何計りなりけん腸も千々に切れ、胸も裂くるばかりなりけん、嗚呼余は母に別れては不幸の身となり、父上に養はれては不孝の子

とぞなりたりける、今思ひ見るもいと恐ろしくまた悲し。

夜は明そめて東天ほの〴〵と白む頃、余は目を覺まし、母上を慕ふて泣きぬ、父上は起き出で玉ひて樣々に云ひなだめぬ、余は「母上居玉はねば家内は淋しさやるかたなく、彼處に行かばや〳〵」と、墓原を指して、云ひつゝ泣きぬ、父上は堪えかねて余をひしと抱き、余の頭に顔押あてゝ血涙に咽び玉ひけり、余は尙聞き分けもなく母上を慕ひぬ。

親戚の人、隣家の者、集ひ來るに從ひ、次第に騷がしくなり余の側に來りて慰むるもの多く、美くしき物もて來つ與へ呉るゝ人もありき、紙鳶を示しつ朝飯終らば野邊に出で、共に飛ばさんと誘ひ呉るゝ友もありき、余の心は是等の事に紛れて、母を思ふ心も薄らぎぬ、氣嫌よく遊び居る時、余に問て「御身の母上は何處に居玉ふや」と云ふ人ありけり、余は墓原の方を指しつ、彼方と答へて亦遊び戯れぬ、亦人來りて母上を見覺えしやと問ひぬ、余は顔ばせをば見知れりと答へしとぞ、されど今思へば稚な心にて答へたりけん、少しも覺えず。

ア、早や鷄の音遠近に聞ゆ、夜も明け近かくなりぬらん、身躰の疲烈しくて亦書きつゞくる力なし、亦明日の夜を待ちて書き接がん、今鳴るは後夜の鐘、是生滅法のひゞき實に悲しく聞ゆ、窓もる風に、孤燈の光り滅亦明、余は床に就きぬ、容易に眠られぬまゝ尙我身の上を思ひつゞくれば涙は枕に滴つて靜かに聲あり。

寄書

民は饑たり妾は醉たり馬は肥たり

伊豆下田　倚白生

粥を食ふを得ずして菜を食ひ菜を食ふを得ずして草を食ひ草を食ふを得ずして葉を食ひ皮を食ひ骨を食ひ土を食ひ食ふ物無きに及んで死に任するあり夫妻並んで縊るゝあり子を棄てゝ隱るゝあり之に次ぐに盜賊の蜂起を以てす衰弊の極も亦慘なる哉。

是れ古來の亂世を想像して寫せる一節なり如此の時に際會せる當路の者は曰く某の地震某の噴火某の洪水某の海嘯某の風雨と天災地害を擧げ來て只一語……故に如何ともすべからず……と結論す而して其原因は眞に災害に限れるや尙ほ其他にこれあるやを究めざるなり究めざるに非るなり知らざるに非るなり云はざるなり試に頭を其以前に回らせ紺幰車を驅て桃李の蹊に宿し紅雪兒に歌はしめて竹葉の興を添へ翠帳珠簾不獨映清歌寶瑟自相依の快樂を極めし者は有らざりしか鹿鳴の歌曲は賓客を遇するなり殊勝にこそ紅葉の踏舞は祝賀を表するなり奇特にこそ歌曲の妙なる踏舞の巧なる豈啻に雲を停め塵を動かすのみならんや影響の及ぶ所能く不粹の細民をして餓死せしむるに至れり孔子の聞韶三月不知肉味も宜なり。

スペンセル曰く

"It is not, as we commonly suppose, that there are no governments but those of monarcis, and parliaments, and constituted authorities. These acknowledged governments are supplemented by other unacknowledged ones, that grow up in all circles, in which every man or woman strives to be King or Queen or lesser dignitary." と洵に然り而して彼れ富貴のなり輩は此認むべからざるの政府に立ち或は王となり或は女王となり或は縉紳家となりて斷へず不言の命令と無謂の教誨とを布告しつゝあるなり汝等貧賤の身分を以て

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

吾輩の所爲に倣ふ勿れと云ふとも如何で其功の有るべき楚王好細腰宮中多餓死と聞きし鵜を學ふの烏にして淵に溺れしも夥からん故に一たび災害に遇へば忽ち慘狀を顯すなり是に於て遽かに救濟の策を講ず講ぜざるには勝ると雖とも亦既に遲し史伯は地下に笑はん時至而求用恐無及也と夏則資皮冬則資絺旱則資舟水則資車以待之也とは申胥の迂言か。

勤儉の民には凶歲なし凶歲なきに非るなり貯蓄足るなり貯蓄は勤儉の產物なりとす而して此美風は固と有形の法律に由て成らず偏へに無形の感化に伴ふ感化の根源は所謂認むべからざるの政府にてあるなり之が王たり女王たり縉紳家たる者は愼まざるべからず狗彘食人食而不知檢塗有餓莩而不知發人死則曰非我也歲也是何異於刺人而殺之曰非我也兵也とは孟軻氏の說なり是れ災害てふ間道に潛みて世の非難を免れんとする者の行き留りなること其人自らも悟れる所なりされはにや義倉を開き公金を出し狼狽して計考す國を憂ふる者の如く然り而して國を憂ふるに非るなり身を淑くするなり身を淑くするは如此にして可なり苟くも國を憂へば發奮して其本に反れ何の暇あつてか歌舞せんや何の暇あつてか吹彈せんや何の暇あつてか醉飽せんや抑も亦何の暇あつて姦淫せんや。史を讀みたる者は知らん The decay of ol d Roman virtue became at the same time apparent in a great increase of luxury. これを看よ國民の道德を腐らし社會の衰態を釀すの主因たるは奢靡なり是を矯正するは誰の責ぞ季文子は曰く人之父兄食麤衣惡而我美妾與馬無乃非相人者乎と嗚呼民は饑へたり妾は醉たり馬は肥たり。

落語

倚欄生

近頃廢娼廢藝妓なんどの說出て大に世の注目する處となりたるは誠に喜ふ可きことにて世上一二の論者ありてかれこれ論難すれども娼妓藝妓など云ふものゝ社會をみだす大害あることはいかにしても爭ひ得ぬ事實にて余は一日も早く是等のものゝ撲滅せられんことを希ふなりしかるに倚之に一の大に風俗をみだす基となるものにて未た世人の攻擊を受けざるものありとす何にと云ふに所謂落語家是なり他の地方ハ知られども東京に於ける落語と名くるものは十中八九ハ皆遊廓の案內者なり藝妓買の手引等なり然上るりは酒興の面白味を說き都々一の傳授をなすものにして徹頭徹尾少年輩を誘惑する語にあらざるハなし而して彼等は皆多年熟練したる快辨をふるひて滔々述へ立つるを以て非も利にきこへ不行跡もさまで咎むべきにあらぬ樣にきこゆるなり且落語ハ手輕に聞き得るが故に書生輩の之に赴く者甚多しときく余は實に此落語を以て少年輩遊蕩の初階級なりと思ふなり實際落語家ハ是等の談によりて客に媚びされは聞手なきが故に止を得ず云ふかは知られども其害を世に流すに至りては决して默々に付すべからず又或人は廢娼の一手段として新聞及他の街頭にひさぐ冊子類に遊廓の事柄を載するを禁し世人をして可成遊廓の事情を知らしめざる樣にすへしとか云ひたれとも余はかゝる鄙猥なる落語にして止まされは遊廓の事情の世に知らるゝ道は决してふさがれざるべしと思ふ、ゆゑに此落語を改良するは亦廢娼の一手段なるへし世の人以て如何となすや

開書

交詢

●沼津城內鳴西甲一郎樣　我國に於ては未た家政學盛ならねば之に關する書物も少なき事と思はれ候、近頃出てたる瓜生氏の家政學や小林氏の家政小學は宜きものと存し而し之を御持ちとあらば其外には文部省印行の家事要法（上下二冊）と云へるもの宜しかるべくと存候、此外には和書にては存しませず原書ならば倚あるべく候○產婆云々、看護婦云々との御問ひ今少し御待ち被下度候

●岩代郡の山某女樣　日本國の地圖では陸軍省陸地測量部にて製し候ものが宜しからんとの事に御座候○万國地圖の事は何れ後便に御知らせ申すべく候○英和字書中では矢張り英和字彙といふのが宜しかるべく候近頃小形のも出來致し居候、棚橋氏及イーストレーキ氏の著に關る小形の字書も宜しきものとなり

●越後高田加山喜太郎樣　女學校に用ゆる家政學は前の西島氏に答へし如くに御座候○作文書は近頃發兌の普通國文とか國文學讀本亦は和文教科書と云ふ如きものが宜しかるべく候○本社發行の徒然草講義は第一號だけにて相止め通信女學の方に揭ぐる事と致し候所別に註解のつきたるもの實掛居候

●伊勢國森きん子樣　獨逸國生活の狀態を敎ふる書物は未た和書にては見當り不申候

●牛込一女子樣　日本料理、と西洋割烹等を敎ふる所とてなかる可くかとなし學校抔にては敎ゆる人を雇ふて教授致し候得とも料理のみ教授する處は未だ見當り不申候

●鯤卯子樣　女子十八歲にて二年程勉強なさるとならば私立學校に入り其望む所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の學科を撰んで專修する方宜しかるべく候到底二年の間に充分勉强する事は六かしかるべく候何に學校卒業抔云ふ事は望まず他日家を持つて最も必要なる學課を修むる方得策なるべく候。

●本鄕棋仙女樣　文章と漢學を學ぶ所云々何人が宜しきや分り不申候人各好む所有之候故漢學者として人に知られ候者なれば何人にても宜しかるべくと存候○洋服裁縫を教ふる所とて格別にはなかるべく候女學校にでも入り玉はゞ教員を雇ふて教授する所も之あるべく候。

●駿台の愛讀生樣　リツトウル、ウーメンと云ふ小說はアルコツト女史の著述なり。

●熱海先憂子樣　睡眠時間は青年の御方にて大抵八時間位が適當なるべく候、身躰弱き人は九時間も眠り玉ふ方宜しかるべく候、何時も食時の後一時間位散步して其後は勉學しても差支へなくと存候然し一時間毎に數分位休む方宜しと存候○英學獨習は極初學よりするは六かしく斯くしては迚も發音抔は完全に學はれ不申候而し音に構はずば獨り案內と云へる書に就て御學びなさるべく候○胃病云々之は運動をよくするのが第一の妙藥と存候食慾の起るのも身躰の衰ふるのも皆運動の足らぬ結果に御坐候。

政治

撰擧の期近づくに連れ、騷動いよ〱激しからんとす、土佐に於ては之が爲めに人を殺すものあり、能登に於ては之が爲に一揆を起すものあり、其他喧嘩拳骨によりて演說を妨ぐるもの尤も多し、政論者は抑そも國を益せんとするか若しくは毒せんとするか。

宗教

尤も多く人を動かすものは宗敎と政治との事なり、今人既に政治上に於て騷ぎ動けり、願はくば后ち宗故上に於て同樣の慘劇を見るなからんとを、然あらせんとには先輩の人極めて寛量公平ならずんばある可らず。

大學新總理

加藤弘之氏が總理に復せしは至當の事と云ふべし、只だ本年帝國議會の經濟論を豫想するときは、新總理は隨分の難地に入り込みしもの哉、然れども目下氏を置て他に人なし、吾人は大學が其當に在るべき丈けに在らんとを祈るを以て安ぜんとす。

生徒及罪人の不自由

基督敎徒同盟會は、學校の生徒に實際の信仰自由を得せしむる事、及び監獄內に傳道の自由を得る事に付き政府に勸告する所ろあらんとす、共に目下に必要の働らきと云ふべし。

現今の佛教女學校

と題し、佛敎主義の女學雜誌「婦人世界」第八號に左の如く記載したり、

北陸婦人教會は佛教家の設立に係る女學校は左の如しと報せり

積德女學校（東京築地）　女子文藝學會（東京麴町）　相愛女學校（大坂東區）
文學寮付屬女學會（京都）親和女學校（神戶）　白蓮女學校（周防德山）
高田學校（越後高田）　六和女學校（函館）　吉祥女學校（函館）

此中跡見女學校を加へありしも該校は直接に佛敎女學校とはなし難からんよりて之を除き記者が聞及ぶものを加れば

綜藝種智院（大坂）　淸揚女學校（上州前橋）　令德女學校（肥前佐賀）
法心女學校（馬關）　高梁女學校（備中高梁）

此他にも一二校あれども能く記憶せず今此等の女學校をこれを基督敎徒の設立するものと相比較せばその不完全なる實に同日の論に非るべし佛敎者はこれを以て滿足せんとするや吾人は頗る慨歎に堪へざるなり。

存娼家の一策

府下には巧みなる存娼家あり、現今著名なる廢娼論者の風評をさま〱に製造し、之を不品行の人なりと評判して暗に廢娼論の勢力を挫かんとするものあり、同志の人深く此に注意せずんば遂に彼等が術中に陷いるべし、左るにても彼等は實に氣の毒の人なる哉。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

警視副總監は此の場合に聽衆を一旦解散するを要せずと答へたり。

政談と學術演説の區域

政談演説を學術演説に換ゆる時、何の必要ありて聽衆を一旦退場せしめざる可らざる乎、若し如此き不便を必要とせば、警視廳に於て土足のまゝ登場し得るの一細便を得たりとするも抑も何んの喜こぶべきとかあらん、或人は之が爲めに警視總監に伺出るよし、吾人も速に其明答を得んとを望むもの也。

熱望

全國の廢娼同盟會員は覺悟したり、八九月迄は精密なる材料を調査せん、着實なる同志者を增加せん、有力者に懇々勸告せん、而して九月を期して全國起り立ち、十一月には全國到る處ろの縣會に於て廢娼建議を可決せしめ、且つ全國到る處ろより帝國議會に向つて建白せしめんと、元就云く十を望んで初めて一を得べしと、吾人は同志者の熱望あらんとを只管らに熱望するもの也。

女學上反動

國文熱熾んなると共に、女學校に於て流行反動の徵を現ず、則ち從來英文學の格外に多かりし割りに亦格外に之を減ぜんとすると是れ也、吾人はその何れにも贊成せず、只だ中の宜しきを得んとを可となす。

○女雇人及び周旋料　昨年中府下雇人受宿にて周旋したる女雇人は七万五千三百七十四人にして此周旋料八千八百九十三圓九十三錢九厘なりと云ふ。

○產婆會議　去る廿三日東京府廳に於て府下產婆營業者役員參集して產婆營業上の件に付き會議を開きたり。

○產婆養成所　醫科大學第一醫院にては產科學教室内に產婆養成所を設立したるが修學期限は十ヶ月にして躰格强壯品行端正年齡廿五年以上にして修學期限内家事に關係なきものを入學せしむる由。

○養育院慈善會　去る十七日より三日間同會へ入場せし人數總計千七百余名にして寄附金並に物品賣上代金合計四十余圓なりと云ふ。

○遊女教會　北海道江差新地町に開會したる同會は毎月一回藝娼妓に宗教道德の講話を聞かしむるの目的にて目下會員の數は百二十余名に及びたりと。

○茶撰女　例年製茶の時には茶撰女か拂底にして困る由なるに本年は米價の騰貴と世上の不景氣とに細民が多く共に女の糊口に究するものあるより茶撰に雇れんと申込むもの多く却て雇主が之を謝絶するに困る程なりと云ふ。（五月廿四日中外電報）

○女子理學者　婦人の癲狂院にては女子の理學者を要するとて今度ニウヨークの癲院にては之を容るゝ事にせんと過般市會にて可決せしと云ふ。

○コブデン孃　有名なる政治家にてありしコブデン氏の令孃は過日ロンドンの國民自由倶樂部に於て女子撰擧權の事につき演説せし由、ハリエットスタントン夫人も同席にて演説ありし由。

○少孃ハワイに行く　ヲフッチヤー孃は嘗てボストン府のパーキンス學校を卒業し爾後盲啞院にありて盡力せり、過般ハワイ島に向つて航せられしとぞ、彼島に於ても矢張り不幸なる不具者の爲めに働かんとする目的なりと云ふ。

○婦人の著書　佛京パリーの婦人矯風會々長なるドライズム女史又は近頃、佛人及萬國女權擴張と題する書を著はしたりと云ふ其書は歷史の如く有益にして小説の如く面白しと讀みなる人は云へり。

週報

○官令　二十一日法律第三十七號を以て沖繩縣及小笠原島地方費の件勅令第八十三號にて要塞砲兵の服制に關する件同第八十四號にて佐世保軍港境域の件を裁可公布せらる●二十二日勅令第八十五號にて屯田兵條例中追加の件を裁可公布せらる●二十四日勅令第八十六號を以て陸軍下士文官採用規則中改正の件を裁可公布せらる●廿六日法律第三十八號を以て水路測量標條例を裁可公布せらる。

○宮廷　二十二日天皇陛下青山御所へ行幸。

○政治　廿日内閣會議に山縣、山田、樺山、芳川、西鄕、松方、後藤、青木、陸奥の各大臣參集せり●廿一日自由黨事務所に於て各府縣の議員總會を開かる●廿三日内閣會議に山縣、西鄕、山田、大山、後藤、青木、樺山、芳川、陸奥の九大臣參集せり。

○教育　十九日加藤弘之氏帝國大學總長に任ぜらる●廿四日より一ッ橋外帝國大學講義室に於て大日本教育會第七回總集會を開かれたり。

○彙報　二十二日上野公園内國勸業博覽會場に於て赤十字社第四回總會を開かる同日平山省齋氏歿す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廢娼記事

日本全國同盟廢娼會年會

●初日。五月廿四日夜七時、東京飯田町明治女學校に於て右年會を開く、世話人總代の指名により、小島官吾氏を議長に、飯野吉三郎氏を書記に推撰す、議長書記着席、先づ各地より來着せる書狀及電信を朗讀す、大分縣東國東郡青年會、磐城平日本福音磐城青年會、名古屋廢娼會、福井日本娼妓全廢會、山形縣鶴岡莊內學事會、栃木縣富山攻學會、新潟廢娼會、北越廢娼同盟義會の諸會並に、仙台細見七郎、河村洋二郎、丹波前田貫一郎（五十錢封入寄附）、長崎遠山覺郎、神奈川山口健二郎加藤福太郎、大坂貯庫罪生、石川縣物熈虎之助、大坂山崎林太郎の諸氏、及び森林太郎、黑岩周六等諸氏の來狀、同じく、久留米青年縱橫會、岩國本町廢娼同盟會、筑後柳川牛島林太郎、山梨廢娼會、兵庫廢娼同盟會、丹波須知前田貫一郎諸氏よりの電報を朗讀したり。畢て各會の代人として出席したる人々の姓名を朗讀せるもの左の如し、

●上毛青年聯合會、石島良三郎外二名○横濱青年會、柏川富三郎○鎮西廢娼會、富久熊夫○兵庫縣廢娼同盟會、飯田勇記○山梨廢娼會、村松鍬三外一人○大和廢娼會、松島常松○神奈川西多摩郡青年會、田中陸之助外一人○岐阜原田村攻學會、大原鉄次郎外二名○伊豫松山青年會、三並良○鶴岡廢娼同盟會、倉長恕●武州南埼玉郡地方、根岸千仞○仙臺地方、下飯坂長政○熊本地方、犬塚泰供○西京地方、松山高吉○大坂地方、本間重慶（以上地方とあるは未廢娼會設立せず只有志者の代人として來會せしものとす）●東京廢娼會、巖本善治○廢娼壯年義會、青木秀二郎外三名○婦人矯風會、淺井さく○婦人白標俱樂部、佐々城豐壽○矯風會、中川永輝○不邪淫會、小島官吾。

此他一個人として來會するもの、植木枝盛、湯淺二郎、伴直之助、植村正久、田井正一、渡瀨寅二郎、諸氏以下百十名あり。

次に各會代人其地方の廢娼運動を報告す、（既に過去に關する分は大率女學雜誌上に既に記載したり、其の未記載せざりしもの及び今后運動の方針なるものは次號より追々に記載すべし）。

次に巖本善治氏の發案府下に常置委員を置くの議は、東京五團躰の委員に之を托する事に決し。飯野吉三郎氏の發案廢娼同盟會の機關雜誌發行の議は、現に發行する「廢娼」を一層擴張して之に委托する事に決し。石島良三郎氏初期帝國議會へ廢娼建白差出の議は滿場總起立を以て可決し。之より別室に於て茶菓を喫し懇談せり、時に在直江津島田三郎氏より電信到着し、盛會を祝し來れり、同氏は不得止事故により此盛會に欠席せしに付き、歸京后廢娼上の意見を印刷して各地の代人に配布し、此席上にて面會せざりしとの遺憾を償ふ旨申遣せり。

●●第二日　翌々廿六日即はち月曜日夜七時より木挽町厚生舘に學術廢娼大演說會を開く、雨中を侵し來聽するもの九百名、中島信行氏は惡性感冒にて來京なし其他德富猪一郎、湯淺二郎、伴直之助、小島官吾の四氏主會者たりと云へども、主も小島氏壇上に立ち、先づ飯野吉三郎氏開會の主旨を述べ、次に（快樂の源を潔ふせよ）金森通倫氏、次に（姦淫に對する社會の良心）宮川經輝氏、次に（廢娼論の結果）イービ氏、次に（賣淫に對する社會の思想）植木枝盛氏、皆熱心慷慨に演述あり、滿場一のノーを發せず終始大喝釆せり、十時畢るときは會員吾知らず總起立して廢娼万歲を連呼絕叫したり。

●●●第三日目　翌廿七日即はち火曜日の夜七時より、同じく厚生舘に於て政談廢娼大演說會を開く、小島官吾氏再たび主會す、第一席に（賣奴の弊風再燃せんとするを防ぐべし）大江卓氏二時間餘の痛快なる長演說あり、次に（一女數男）根本正氏、次に（余の所謂る廢娼論）三宅雄二郎氏、次に（家庭）横井時雄氏順次に熱心なる廢娼論あり、此夜は政談なるを以て入場したるもの少なからんを恐れたるに、時刻に至り來聽者前夜に倍し、八時に至り既に滿場〆切の札を掲げたれば門前より立歸るもの頗る多かりしぞ遺憾なる、內には警官數十名警護し、會員青年所々に取締り、兼て亂暴者あらんとの用意を爲したるに、此夜も亦た終始一聲のノーを發するものなく、斷えず拍手大喝釆、暗に「慷慨」「痛歎」「大和男兒」「大日本國」など絕叫するものゝ外は、場內寂として水を打し如くに沈聽したり。然るに、此日印度より來着したるロッビンス氏は、彼のダイヤー氏と共にボンベーに於て多年廢娼論を主帳し印度全國の社會改良の爲に大に盡力せし人なるが、此度び支那政府に阿片買入禁止の令を發布せんとを勸告したるの序で、我國に來りて社會改良の運動を視察せんとて到着したる也、極幸の好機なるを以て右政談演說の后に於て學術演說として廢娼事情の演說を委賴し警察署にも俄かに屆出たるが、右政談の畢りしのち一旦悉とく入場者を退出せしめ更めて入場せしめたり、會主の强請に關せず强いて如此く取計らはれしとの殘念なる爲か、傍聽者が再び入場するときは非常の快活にて異口皆な廢娼万歲を唱へ、千餘名の聽衆悉とく廢娼論者かと見受られたり、扨てロッビンス氏は小方仙之介氏の通辨を以て印度に於ける廢娼の景況、及び我國に對するの希望を濶大の雄辨を以て演述あり、十一時閉場の時は滿堂割るゝ計り廢娼万歲を連呼し、大皷の堂々と共に快散したり。

●●●●第四日目　同志者申合せ、午后六時吳服橋外柳屋に於て懇親會を催ふし辨士を招待し廢娼事業の多望を祝したり、但し此日の景況は女學雜誌編輯后に係るを以て次號に精報すべし。

右諸辨士演說の筆記は「廢娼」第三號に全載せらるべきを以て此に畧す。

●上毛青年聯合會　同會第二回の大運動により、縣會正副議長、四十餘名の縣會議員（今や存娼論者只二名となれり）、銀行頭取、其他合して四百廿名の總代として、石島良三郎、渡邊金次郎、宮崎鍬二郎の三氏は陳情の爲め、內務大臣の許に出頭したるが、大臣差支あるを以て次官白根專一氏に面會し、縷々陳述したり。又右三氏は去廿一日群馬縣廳に出頭し、三ヶ所を廢し七ヶ所を遺したるの理由を質疑したるに、知事は何等の答へもなかりしと云へり。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

世の飲酒諸君に告ぐ

拙者義從來好酒罷在候處何分習慣の難去して其目的を果す能はず依て禁酒致度心底に候處東京神田表神保町壹番地津村いし方にて販賣する酒不可飲と云ふ酒きらひにある藥半周間分(定價四十錢郵税二錢)を買て直ちに試用致候處僅少の日數にして其功驗著はれ今は一滴の酒は勿論其臭ひさへ嗅ぐときは氣味惡くして忽ち嘔吐の氣を覺へ全く嫌酒の身躰となれり是れ寔に右酒不可飲の空しからざるとを江湖酒の爲めに困難せらるゝ人に御知らせの爲め致廣告候也

長野縣南佐久郡大日向村　**淺川亮**

六合雜誌

第百拾三號　五月十七日發行

本號より横井時雄氏編輯を擔任せられ改頁を行ひ面目を一新す

目次

○革命的の宗教……………横井時雄
◎米國理財學の現況……ドクトル、フィロソフィー 小野英二郎
◎貯蓄……………文學士 蓼川漁夫
◎曼國社會黨の起原及其現狀……………池本吉治
◎基督教は罪人の專有物に非ず……………岸本能武太
◎雜記○醫療奇跡と天然奇跡○神學説と信仰の事實○ハンフリー、ワルド夫人の計畫○八類教會々堂等○毎月一回刊行

六合雜誌				
定價	一冊四十頁以上	半ヶ年六冊	一ヶ年十二冊	府ノ内外ヲ論ゼス別ニ遞送料ヲ要スルコナシ
前金	金八錢	金四十三錢	金八十錢	
廣告料	自一行至五行	自六行至十五行	十六行以上	
一回限	八錢	七錢	六錢	
二回以上	七錢	六錢	五錢	

發行所　東京々橋區出雲町一番地　**警醒社**

發兌					
五月。	三日	十日	十七日	廿四日	三十一日
六月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
四月。	五日	十二日	十九日	廿六日	

定價		
一冊。六錢　郵税。五厘	(但府内無郵税)	
十冊。五十八錢郵税。五錢	(同前)	
半年分	一圓四十三錢	府外は　一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は　二圓八十六錢

廣告			
一行	一回	(廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

注意社告

前金切の節は雜誌の封紙に朱印の半錢形を捺す、之によりて前金を廻送あれ、然らざれば一時發送を見合す。

代金を送らるゝには通運便又は郵便小爲替にて麴町郵便局へ當て御振込被下候樣奉願上候。

明治二十三年五月三十日印刷
明治二十三年五月卅一日出版

發行所　東京麴町區富士見町二丁目一番地　**女學雜誌社**

編輯兼發行人　東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

世の飲酒諸君に告ぐ

拙者義從來好酒罷在豫て禁酒致度心底に候處何分習慣の難去して其目的を果す能はず依て東京神田表神保町壹番地津村いし方にて販賣する酒不可飲と云ふ酒きらひにある藥半周間分（定價四十錢郵税二錢）を買て直ちに試用致候處僅少の日數にして其功驗著はれ今は一滴の酒は勿論其臭ひさへ嗅ぐときは氣味悪くして忽ち嘔吐の氣を覺へ全く嫌酒の身躰となれり是れ寔に右酒不可飲の空しからざるとを江湖酒の爲めに困難せらるゝ人に御知らせの爲め致廣告候也

長野縣南佐久郡大日向村

淺川亮

六合雜誌

第百拾三號　五月十七日發行

本號より横井時雄氏編輯を擔任せられ改頁を行ひ面目を一新す

目次

○革命的の宗教……横井時雄
◎米國理財學の現況……ドクトル、フィロソフィー 小野英二郎
◎貯蓄……文學士 蔘川漁夫
◎曼國社會黨の起原及其現狀……池本吉治
◎基督教は罪人の專有物に非ず……岸本能武太
◎雜記○醫療奇跡と天然奇跡○神學說と信仰の事實○ハンフリー、ワルド夫人の計畫○八類教會々堂等○毎月一回刊行

六合雜誌		
定價	一冊四十頁以上	金八錢
	半ヶ年六冊	金四十三錢
	一ヶ年十二冊	金八十錢
	府ノ内外ヲ論ゼス別ニ遞送料ヲ要スルコナシ	

廣告料	一回限	二回以上
自一行至五行	八錢	七錢
自六行至十五行	七錢	六錢
十六行以上	六錢	五錢

發行所　東京々橋區出雲町一番地　**警醒社**

注意社告

前金切の節は雜誌の封紙に朱印の半錢形を捺す、之によりて前金を廻送あれ、然らざれば一時發送を見合す。

代金を送らるゝには通運便又は郵便小爲替にて麹町郵便局へ當て御振込被下候樣奉願上候。

發兌					
五月。	三日	十日	十七日	廿四日	三十一日
六月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
四月。	五日	十二日	十九日	廿六日	

定價	
一册。六錢　郵税。五厘（但府内無郵税）	
十册。五十八錢郵税。五錢（同前）	
半年分	一圓四十三錢　府外は　一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢　府外は　二圓八十六錢

廣告		
一行一回（廿七字詰）		前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

明治二十三年五月三十日印刷
明治二十三年五月卅一日出版

東京麹町區富士見町二丁目一番地
發行所　**女學雜誌社**

編輯兼發行人　東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留　巖本善治

印刷人　東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留　森田豐